

提出 順番	No. 2	平成 29年 11月 24日 午前・午後 4時 7分受領
----------	----------	---------------------------------

平成 29年 11月 24日

幕別町議会議長 芳 滝 仁 様

幕別町議会議員 小田 新紀 

一般質問通告書

次のとおり通告します。

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
<p>道徳の教科化に関わり柔軟な学びの展開を</p>	<p>2018年度より小学校、2019年度から中学校において、これまでの「道徳」が「特別の教科 道徳」と位置づけられることになりました。これまでは、検定を受けない副読本やテレビ番組、教員自らが作成した資料などを用い、目の前にいる子どもたちに合わせた学習展開が広げられてきましたが、今後は、文部科学大臣の検定を受けた教科書を基にし、児童生徒に対し、学習したことへの評価が導入されることとなります。つまり「道徳」が、検定を受けた教科書で学んだことの「評価」の対象となります。個人の道徳性に対して公的に判断を下すこととなるのです。</p> <p>こうした、いわゆる「道徳の教科化」についての是非はあるものの、現政府のもと導入が決定され、学校現場では次年度実施に向け、すでに各学校で研修を重ねているところであります。</p> <p>「道徳」については、他の教科と比べても大きな特性があり、数値化されて評価されるものではありません。また、どこの地域でも、あるいはどこの学校でも画一的に行われるものでもありません。当然、幕別の子どもたちと、都市部の子どもたちでは、学習内容が変わってしかるべきと考えます。目の前にいる子どもたちの特徴を踏まえ、柔軟に学習を組み立てていくことがより一層大事になってくることでしょう。</p> <p>文部科学省の方針においても「物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考え方を深める学習」「多様で効果的な道徳教育」「一人ひとりの良さを伸ばし、成</p>

長を促すための評価」といった言葉が並び、数値で他の子どもたちを比べて評価したり、入学試験で活用したりすることはしないと明言しているところでもあります。

つきましては、道徳の教科化に関わり、以下の点について町の見解を伺います。

- (1) 道徳の教科化そのものについての考え。
- (2) 町内においても、目の前にいる子どもたちの実態に合わせ、教科書の活用方法を含めた各学校の創意工夫された学びならびに評価方法を尊重していくべきと考えるがいかがか。
- (3) 指導要録における評価の記述方法ならびに形式は。
- (4) より一層の指導の充実を進めるための新たなデジタル教材等の教育環境整備についての考え。

(注) 質問の要旨は、具体的に記載すること。